

第65期

中間報告書

2010年4月1日～2010年9月30日

SEIKAGAKU CORPORATION

(証券コード：4548)

糖質科学で未来を創る

スポットライト

～露木茂さん、セーフでした。
あなたのひざは大丈夫？～

疾患啓発活動を推進

P6



生化学工業の特徴

糖質科学という専門分野

生化学工業は、複合糖質の重要性がまだ解明されていなかった半世紀以上前から糖質科学に着目し、医薬品開発への応用研究を進めてきました。ニッチ領域での専門性を持ち、国際競争力のある研究開発型製薬企業としての強みを活かしていきます。

1

高品質な製品を供給

生化学工業は、世界で初めてコンドロイチン硫酸の工業生産を開始し、この技術をさらに活かして、ヒアルロン酸の高純度精製を成功させ、関節機能改善剤アルツを開発しました。現在、アルツは世界21カ国で承認を取得し、今までに2億本以上の使用実績を誇っています。

2

研究開発に力を入れたビジネスモデル

生化学工業は、医薬品の販売部門を持たず、それぞれの製品領域で強みを持つ企業と販売提携することにより、経営資源を研究開発や製造に集中的に投入しています。この姿勢は、売上高の20%程度を研究開発費に充てる基本方針にも表れています。

3

まめ知識 生化学工業コーポレートシンボルマークの由来

当社のコーポレートシンボルマークは、長年、研究開発の対象としてきた「糖鎖」からイメージできる「鎖(くさり)」をメインモチーフとしています。しっかりと絡み合った2つの輪が、学問と産業、人と人、豊かな自然と心豊かな生活の強固な結合を表現しており、社会との連携に重きをおく当社事業の方向性をシンボル化しています。さらに、右上に伸びる長円は自らの成長を無限大に目指す企業姿勢を示すものです。ブランドカラーの「ブルー」は独創性と先進性を、「ブラック」は力強さをイメージしています。



糖質科学で未来を創る

ヒアルロン酸から生まれた医薬品は
今日も皆さまの健康で心豊かな生活に貢献しています。
生化学工業は「研究開発型製薬企業」として
これからも糖質科学分野での創薬に挑戦し
事業発展していくことを目指します。

目次

株主の皆さまへ	3
スポットライト	6
事業紹介	7
事業レポート	9
研究開発活動	11
IR 広場	14
中間連結財務諸表 (要旨)	15
会社概要	17
株式の状況	18



株主の皆さまへ

「生化学工業10年ビジョン」で掲げる『グローバル・カテゴリー・ファーマ*』としての発展を目指し、「中期経営計画」のもと、主力製品の販売拡大や研究開発の進展など、基盤づくりに向けた取り組みを展開していきます。



代表取締役社長
水谷 建

業績概要

薬価引き下げや円高など厳しい事業環境の中、減益となりましたが、国内アルツの販売が拡大し、新薬開発が着実に進捗するなど、基礎体力強化への取り組みが前進しました。

当中間期(2010年4月～9月)の売上高は、関節機能改善剤アルツの国内での販売数量増が薬価引き下げや海外医薬品等の減収を補って、前中間期とほぼ同水準となりました。

関節機能改善剤の国内市場は、高齢者人口の増加や、疾患啓発活動の展開により、拡大を続けています。このような中、アルツの販売本数は順調に増加し、薬価引き下げの影響をカバーして増収となりました。当社はアルツの販売提携先である科研製薬株式会社と共に、先発品としてのブランド力を活用した拡販に注力しています。また、顧客ニーズに応じたプラスチック容器の新規投入など、競合品との差別化や製品付加価値の向上を図り、市場シェアの拡大に結び付けました。

一方、アルツの海外売上は、円高の影響もあり減収となりました。米国では、一部民間保険会社の償還厳格化などにより、厳しい市場環境が続いていますが、スパルツ(アルツの米国での販売名称)の償還手続きをサポートする施

* 得意分野に研究開発を絞り込んで国際競争力の強化を図る新薬開発企業。厚生労働省の「新医薬品産業ビジョン」において、今後生き残っていく製薬企業の姿の1つとして提言されている。

策を導入したこともあり、減収幅を抑えることができました。中国については、引き続きアルツの世界的な実績や高品質をアピールした販売促進活動に取り組んでおり、現地販売は二桁成長しました。

利益については、腰椎椎間板ヘルニア治療剤「SI-6603」の国内治験進捗に伴い、研究開発費が増加したことなどから、減益となりました。

当中間期は、薬価引き下げや円高などの厳しい事業環境の中でも、主力製品の販売拡大や、新薬開発の進捗などの成果があがっており、今後の収益基盤や基礎体力の強化に向けて前進することができたと認識しています。

研究開発の進捗

開発後期段階のプロジェクトの進捗に注力するとともに、体制整備などを通じて研究開発テーマの拡充を加速させていきます。

当中間期には、2つの開発プロジェクトに進展があり、また、研究開発テーマの拡充を加速させるための体制整備も進めました。

米国市場における戦略製品として承認申請中の関節機能改善剤「Gel-200」については、本年1月に受領した審査結果（「現時点では承認不可」）に対する回答書を本

生化学工業10年ビジョン

『グローバル・カテゴリー・ファーマ』

糖質科学に研究開発の焦点を絞って、国際競争力を確立する

コンスタントなペースで新薬（医療機器を含む）を上市し、3年程度に1つ経営の柱となり得る市場を開拓できる実力を涵養する

中期経営計画

～10年ビジョン実現に向けた「基礎体力の養成と体制の構築」～

スローガン G・P・S (Global, Powerful, Sustainable)

「自らの現在位置を正確に把握したうえで、将来に向けての適切な方向性を確保していく」

年6月に米国食品医薬品局(FDA)へ提出しました。その後、追加の質問対応を含めたFDAとの協議を行っており、引き続き承認取得を目指していきます。

腰椎椎間板ヘルニア治療剤「SI-6603」は、日本における第Ⅱ/Ⅲ相試験の投与後の経過観察が8月に終了し、本年末までに最終の解析結果を得る見込みとなりました。承認申請は2011年半ばを目指しています。

また、新製品のコンスタントな上市を促進するための体制整備を進めました。当社は、自社開発のスピードアップを図る一方で、外部機関や他の製薬企業などからのインライセンス(有望な研究開発テーマの開発権の導入)を積極的に行う方針をとっています。本年10月に、これらの業務を主管する「ライセンシング部」を従来の研究開発本部の傘下から社長直轄の組織へと変更しました。これにより、自社開発と開発品導入の補完を適切かつ円滑に実行し、研究開発テーマの拡充を促進していきます。

株主価値の向上にむけて

『グローバル・カテゴリー・ファーマ』としての発展を通じ、株主価値の向上に努めるとともに、信頼を得続けられる経営を推進していきます。

当社は、2009年3月に専門分野である糖質科学に研究開発の焦点を合わせて『グローバル・カテゴリー・ファーマ』として発展していくことを目指す、「生化学工業10年ビジョン」を策定しました。その第1ステップとして、2010年3

月期を初年度とする3力年の「中期経営計画」をスタートさせ、「G・P・S」(Global, Powerful, Sustainable)をスローガンに掲げて「基礎体力の養成と体制の構築」に取り組んでいます。

こうした取り組みを通じ、着実な成長を果たしていくことで株主価値の向上に努めるとともに、株主の皆さまへの利益還元を重要な経営課題として位置づけています。当社では、配当性向を重視した業績連動型の配当政策のもと、1株当たり年間20円をベースに配当性向30%を維持しつつ、さらなる向上を目指しています。当中間期の1株当たり配当金は、前中間期と同じ12円50銭といたしました。期末配当は12円50銭、年間配当は25円を予定しており、配当性向は52.6%となる見込みです。

また、株主の皆さまのご支援に感謝の意を表するとともに、当社株式をより長期に保有していただくことを目的に株主優待制度を導入しています。

今後も当社は、持続的な成長と経営の透明性を確保し、株主をはじめとするステークホルダーの皆さまから存在意義を認知され、信頼を得続けられる企業を目指していきます。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き、一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 水谷 建

ス ポ ッ ト ラ イ ト



～露木茂さん、セーフでした。あなたのひざは大丈夫？～
変形性ひざ関節症についての疾患啓発活動を推進

当社は、関節機能改善剤アルツの販売提携先である科研製薬株式会社とともに、変形性ひざ関節症に対する正しい知識の普及と早期発見・早期治療の重要性を呼びかける疾患啓発活動を継続的に展開しています。

2010年9月7日には、元フジテレビアナウンサーの露木茂さんを起用し、ひざに違和感や痛みを覚えたら、早めに受診をするように呼びかける広告を読売新聞に掲載しました。

露木さんは、ひざに痛みがあったことから医療機関を訪れ検査を受けました。その結果、すぐに治療が必要ではなかったものの、早期受診の大切さを実感したようです。

このような活動を通じて、変形性ひざ関節症の認知度を高め、より多くの方々の健康で心豊かな生活の向上に貢献できることを期待しています。

「ひざイキイキ」に新コンテンツ開設
「あなたの街のお医者さん」が登場

当社が運営する、変形性ひざ関節症に関する情報を幅広く紹介するWebサイト「ひざイキイキ」に、新たなコンテンツとして「あなたの街のお医者さん」を追加しました。

ひざの痛みをお持ちの方々の中には、「どのような病院を選べばいいのか」、「どのような治療が行われるのか」などと悩まれて、なかなか病院に行く決心がつかない方も多いのではないのでしょうか。「あなたの街のお医者さん」では、治療の最前線で活躍する医師にインタビューし、どのような診察や治療を行っているのかなど、丁寧に話しいただいています。



第1回目は、千葉県船橋市
船橋整形外科病院の土屋明弘先生に
ご登場いただいたよ。



URL <http://www.ehiza.jp/interview/index.html>

事業紹介

生化学工業グループは、ヒアルロン酸製剤を中心としたコアビジネスである医薬品事業と、試薬・診断薬、医薬品原体などを取り扱う機能化学品事業を柱に、世界をフィールドとした事業展開を行っています。

医薬品事業

79.6%

売上構成比

生化学工業が製造・販売する医薬品・医療機器は、主にヒアルロン酸を主成分としています。糖質科学のパイオニアとして、長年の経験による独自の技術やノウハウを活かし、高品質な製品を供給する医薬品メーカーとして、確かな地位を築いています。

眼科手術補助剤

「オペガン®・オペガンハイ®」

ヒアルロン酸の高い粘弾性により眼内空間の保持や角膜内皮細胞を保護し、白内障手術をサポートする眼科手術補助剤です。



関節機能改善剤

「アルツ®・アルツディスポ®」



アルツディスポ® 関節注25mg

SUPARTZ®(スパルツ®)

内視鏡用粘膜下注入材

「ムコアップ®」

優れた粘弾性を持つヒアルロン酸の特性を活かした、内視鏡手術の補助材です。



「スパルツ®」

- 主力製品アルツは、**世界初**のヒアルロン酸を主成分とする関節機能改善剤（注射剤）です。中高年層に多い変形性ひざ関節症の治療に使われています。また、国内では肩関節周囲炎や関節リウマチにおけるひざ関節痛の適応症も取得しています。
- アルツは、米国、欧州、アジア各国など**世界21カ国**で販売承認を取得しています。医療機関から広く信頼を得て、これまでに国内外で**2億本以上**の使用実績があり、ヒアルロン酸注射剤の**世界No.1**製品です。
- 高齢者人口の増加や、変形性ひざ関節症をより多くの方々に知っていただくために2006年より開始した疾患啓発活動の効果もあり、関節機能改善剤の国内市場は**4年連続で10%以上**拡大しています。

● 歯科用医療機器

「エムドゲイン®ジェル」

歯周炎の治療を目的とした歯周外科手術の際に使用する医療機器です。



機能化学品事業

20.4%

売上構成比

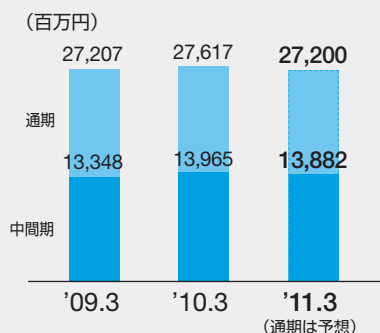
エンドトキシン測定用試薬、研究・検査用試薬、体外診断用医薬品、医薬品原体などを取り扱っています。

- 試薬・診断薬
- エンドトキシン測定用試薬
- 研究・検査用試薬
- 体外診断用医薬品
- 医薬品原体
- オーラルケア製品

事業レポート

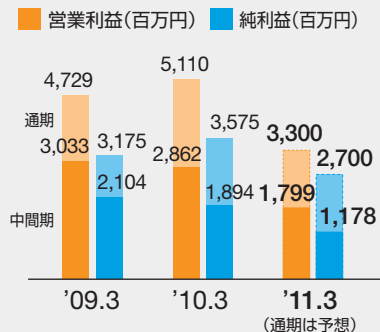
売上高の推移

売上高は**13,882**百万円
(前中間期比**0.6%**減)



営業利益と純利益の推移

営業利益は**1,799**百万円
(前中間期比**37.1%**減)



当中間期の業績概況

当中間期の売上高は、国内医薬品がアルツの販売数量の伸びにより増加したものの、海外医薬品が米国向け出荷の減少や、前年同期に計上した一過性ロイヤルティー収入の反動などにより、前年同期並みの138億8千2百万円(前中間期比0.6%減)となりました。

一方、営業利益は17億9千9百万円(同37.1%減)となりました。これは、国内医薬品の販売数量増で、薬価引き下げの影響をカバーしたものの、ロイヤルティー収入減や円高の影響により、売上総利益が減少したことに加え、「SI-6603」の国内治験の進捗などに伴い研究開発費が増加したことによるものです。なお、経常利益は17億1千7百万円(同38.5%減)、四半期純利益は11億7千8百万円(同37.8%減)となりました。

事業区分別の売上高

医薬品 — 売上高**110億5千4百万円**(前中間期比**1.7%**増)

関節機能改善剤の国内市場は、高齢者人口の増加に加え、販売提携先の科研製薬株式会社とともに変形性ひざ関節症の疾患啓発活動を推進したこともあり、引き続き拡大しました。アルツについては、先発品としてのブランド力を活用した拡販に注力したことや、顧客ニーズに対応したプラスチック容器の新規投入も寄与し、市場シェアが拡大するとともに、医療機関納入本数の増加で薬価引き下げの影響をカバーしました。

眼科手術補助剤オペガンは、販売提携先の参天製薬株式会社と連携して、引き続き販売促進活動に努めたことで医療機関納入本数は増加しましたが、薬価引き下げの影響をカバーするに至らず、売上は減少しました。

内視鏡用粘膜下注入材ムコアップは、販売提携先のジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社とともに、内視鏡手術の手技の浸透を通じた市場拡大に注力した

結果、売上を伸ばしました。

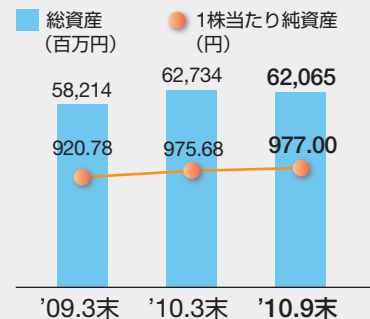
米国向けスパルツは、一部民間保険会社の償還厳格化の影響などにより現地販売本数が減少しました。当社からの輸出は、前期末に販売提携先が在庫を積み増した反動や、円高の影響もあり減収となりました。また、前年同期にあった一過性のロイヤルティー収入の反動も減収要因となりました。一方、中国向けアルツは、医療機関で高い品質が評価されており、売上を伸ばしました。

機能化学品 — 売上高28億2千8百万円(前中間期比 8.6%減)

試薬・診断薬は、海外で品質管理向けエンドトキシン測定用試薬などが堅調に推移したものの、国内での自社試薬などが減少したことから、微減となりました。医薬品原体は、主にヒアルロン酸の出荷時期ずれにより減少しました。

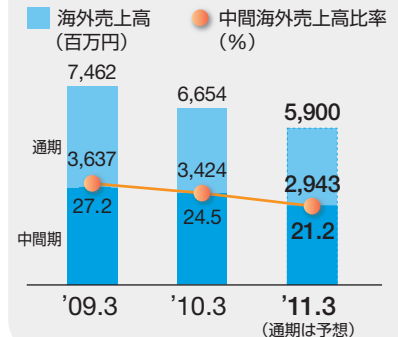
総資産の推移

総資産は**62,065**百万円
(前期末比**1.1%**減)



海外売上高の推移

海外売上高比率は**21.2%**
(前中間期比**3.3pt**ダウン)



通期の業績見通し

売上高については、国内医薬品が増加するものの、円高の影響などにより海外医薬品や機能化学品が減少することから、272億円(前期比1.5%減)となる見通しです。利益面についても、薬価引き下げの影響や、「SI-6603」の進捗により研究開発費が増加することから、営業利益33億円(同35.4%減)、経常利益34億円(同33.5%減)、当期純利益27億円(同24.5%減)となる見通しです。

なお、米国子会社の業績が安定してきたことから、繰延税金資産に対して計上していた評価性引当金の取崩しを行い、相当額を法人税等調整額より減じています。

また、研究開発費の予想は69億円(同25.1%増)で対売上高比率25.4%となる見通しです。

※2010年5月11日に発表した2011年3月期の連結業績予想を修正しました。なお、中間期以降の業績予想の為替レートは、期首想定レート(対米ドル92円)から83円に変更しています。

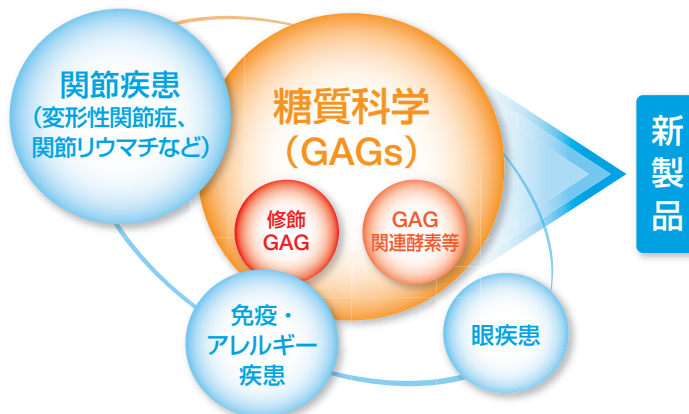
研究開発活動

生化学工業は、専門分野としている糖質科学に研究開発の焦点を合わせて、新製品の早期かつ継続的な上市を実現するために、自社開発・開発品導入をバランスよく推進するとともに、内外のネットワークの強化や組織体制の整備に努めています。

研究開発基本方針

当社は、対象物質や重点疾患を絞り込んだ効率的な研究開発活動を推進しています。

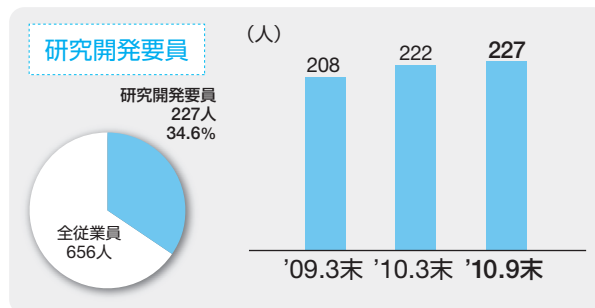
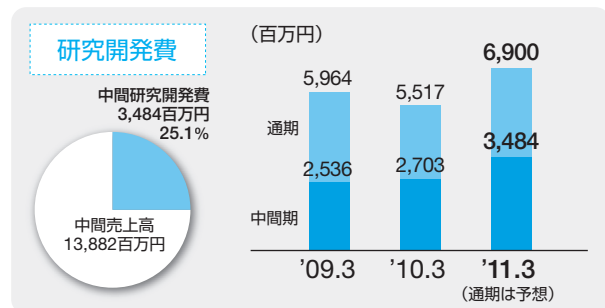
対象とする物質は、当社が長年携わってきた複合糖質の一種であるグリコサミノグリカン(GAG)です。また、アルツの開発、製造、販売を通じて長年培ってきた技術基盤や経験が活かせる関節疾患をはじめ、免疫・アレルギー疾患、眼疾患を重点疾患としています。さらに、開発パイプラインの拡充のために、他社からのテーマ導入にも積極的に取り組んでいます。



※GAG：グリコサミノグリカン(複合糖質の主要成分の1つ)

研究開発費・要員

生化学工業は、売上高の20%程度を研究開発費に充てる基本方針に加え、全従業員の約3分の1が研究開発要員であることなど、多くの経営資源を新薬開発に投入しています。



注目テーマの紹介

SI-6603 国内臨床試験の経過観察が終了

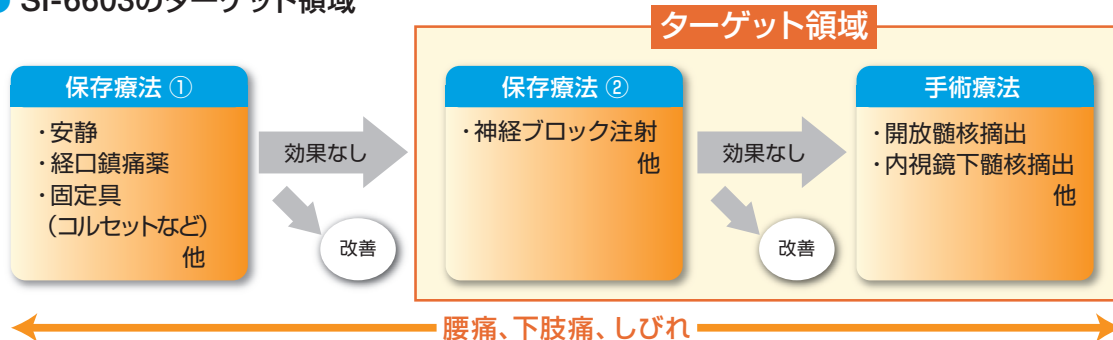
腰椎椎間板ヘルニア治療剤「SI-6603」の国内における第Ⅱ/Ⅲ相試験の投与後の経過観察が2010年8月に終了し、目標症例数のデータを収集することができました。現在、データの取りまとめや解析を行う段階にあり、本年末までに最終結果を得て、2011年半ばに日本で承認申請することを目指しています。なお、米国では第Ⅱ相試験が進捗しています。

「SI-6603」は、椎間板への1回の注射で手術による治療と同程度の効果が見込まれることから、患者の方々の

身体的な負担の軽減だけでなく、手術や入院費用など医療費の節減にも貢献できる医薬品となるものと期待しています。

腰椎椎間板ヘルニアの治療は、下図のように保存療法と手術療法に分けられますが、「SI-6603」のターゲット領域は、神経ブロック注射や手術を必要とする重度な場合を想定しています。年間受診患者数は日本で約110万人と推計されており、このうち、「SI-6603」の投与対象となるのは1～2割程度と考えています。

● SI-6603のターゲット領域



● SI-6603の対象患者数

腰椎椎間板ヘルニア受診患者数 (日本:年間110万人*) のうち、
1～2割程度が「SI-6603」の対象患者数と推定

* 調査会社の調査による処方箋数をもとに当社推計

IR 広場

Q 薬価改定について教えてください。

A 厚生労働省が行う薬の公定価格の見直しのことです。

私たちが病院や薬局などで処方される薬は医療保険の対象となっており、医療保険から病院や薬局に対して支払われる薬代(公定価格)を薬価といいます。

新薬が承認されると、厚生労働省は薬価を決めますが、その後、おおむね2年に1度、実際の病院などへの販売価格などを参考に薬価を改定します。多くの場合、年を経るごとに販売価格は下がりますので、その金額を参考に改定される薬価も下がる傾向にあります。

最近では、2010年4月に薬価改定が行われ、当社の主力製品アルツディスポの引き下げ率は、長期収載品*の2.2%の追

加引き下げを含んで7.7%となりました。今後も薬価が引き下げられる傾向は避けられませんが、当社では薬価の通減率を緩やかにする施策や、販売数量を増加させる施策に注力し、中長期的な売上拡大を目指していきます。

*医療用医薬品のうち、先発品として発売されてから時間が経過し、すでに特許が切れているもので、国の定める薬価基準に長年にわたり収められているもの。



アルツディスポ® 関節注25mg

● 決算説明会の動画配信を行っています。

当社では、年2回(5月・11月)、機関投資家やアナリスト向けの決算説明会を開催していますが、株主の皆さまにも公平かつタイムリーに情報を入手していただけるように、当社ホームページ上でその模様を動画配信しています。

直近の決算説明会の模様は、「株主・投資家向け情報」トップページの「決算説明会動画配信」からアクセスできます。社長の水谷建が決算概要や研究開発の進捗状況などについて説明していますので、是非ご覧ください。



URL <http://www.seikagaku.co.jp/ir/index.html>

中間連結財務諸表（要旨）

中間（第2四半期）連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	当中間期末 2010年9月30日現在	前期末 2010年3月31日現在
■ 資産の部		
流動資産	26,218	27,452
現金及び預金	6,766	8,361
受取手形及び売掛金	8,277	7,155
有価証券	4,793	5,360
商品及び製品	2,618	2,521
仕掛品	746	864
原材料及び貯蔵品	1,097	865
繰延税金資産	768	769
その他	1,153	1,556
貸倒引当金	△ 4	△ 2
固定資産	35,846	35,281
有形固定資産	10,988	11,608
建物及び構築物	5,492	5,601
機械装置及び運搬具	2,809	3,322
土地	1,070	1,071
リース資産	892	987
建設仮勘定	127	18
その他	596	607
無形固定資産	424	497
投資その他の資産	24,433	23,175
投資有価証券	22,609	21,320
長期貸付金	260	280
繰延税金資産	3	3
その他	1,844	1,876
貸倒引当金	△ 284	△ 304
① 資産合計	62,065	62,734

① 資産

資産の部は、前期末と比べ6億6千8百万円減少し、620億6千5百万円となりました。これは、国内医薬品の売上増加に伴い「受取手形及び売掛金」が増加した一方、納税や配当金支払などにより「現金及び預金」が減少したことなどによるものです。

（単位：百万円）

科目	当中間期末 2010年9月30日現在	前期末 2010年3月31日現在
■ 負債の部		
流動負債	4,903	6,121
支払手形及び買掛金	1,235	979
1年内返済予定の長期借入金	—	700
リース債務	216	216
未払法人税等	468	870
賞与引当金	637	630
その他	2,344	2,724
固定負債	1,660	1,186
長期借入金	700	—
リース債務	658	750
繰延税金負債	122	321
資産除去債務	83	—
その他	96	115
② 負債合計	6,564	7,307
■ 純資産の部		
株主資本	55,655	55,187
資本金	3,840	3,840
資本剰余金	5,301	5,301
利益剰余金	48,590	48,122
自己株式	△ 2,077	△ 2,077
評価・換算差額等	△ 154	238
その他有価証券評価差額金	412	715
為替換算調整勘定	△ 567	△ 477
③ 純資産合計	55,501	55,426
負債純資産合計	62,065	62,734

② 負債

負債の部は、前期末と比べ7億4千3百万円減少し、65億6千4百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純利益の減少に伴い「未払法人税等」が減少したことなどによるものです。

③ 純資産

純資産の部は、前期末と比べ7千4百万円増加し、55億1百万円となりました。これは、「その他有価証券評価差額金」が減少したものの、「利益剰余金」が増加したことなどによるものです。

中間(第2四半期)連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期 2010年4月1日～ 2010年9月30日	前中間期 2009年4月1日～ 2009年9月30日
① 売上高	13,882	13,965
売上原価	5,409	5,123
売上総利益	8,473	8,842
販売費及び一般管理費	6,673	5,979
② 営業利益	1,799	2,862
営業外収益	264	264
受取利息	109	120
受取配当金	86	69
その他	69	74
営業外費用	346	336
支払利息	24	28
為替差損	316	305
固定資産除却損	4	1
その他	0	0
経常利益	1,717	2,790
特別損失	51	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	51	—
税金等調整前四半期純利益	1,666	2,790
法人税、住民税及び事業税	489	897
法人税等調整額	△ 0	△ 1
少数株主損益調整前四半期純利益	1,178	—
③ 四半期純利益	1,178	1,894

① 売上高

売上高は、前中間期と比べ8千3百万円減少し、138億8千2百万円となりました。これは、国内医薬品が薬価引き下げの影響を上回るアルツの販売数量の伸びにより増加した一方、海外医薬品の米国向け出荷の減少や前中間期にあった一過性ロイヤルティー収入の反動に加え、機能化学品のヒアルロン酸の出荷時期ずれがあったことなどによるものです。

② 営業利益

営業利益は、前中間期と比べ10億6千2百万円減少し、17億9千9百万円となりました。これは、国内医薬品の販売数量増で、薬価引き下げの影響をカバーしたものの、ロイヤルティー収入減や円高の影響により、売上総利益が減少したことに加え、「SI-6603」の国内治験の進捗などに伴い研究開発費を中心とした「販売費及び一般管理費」が増加したことなどによるものです。

③ 四半期純利益

四半期純利益は、前中間期と比べ7億1千6百万円減少し、11億7千8百万円となりました。これは、営業外損益が前中間期並みであったものの、特別損失として資産除去債務会計基準の適用に伴う過年度分の当該費用を計上したことなどによるものです。

会社概要 (2010年9月30日現在)

- ◆社名 生化学工業株式会社
- ◆創立 1947年(昭和22年)6月2日
- ◆所在地 本社 〒100-0005
東京都千代田区丸の内一丁目6-1
丸の内センタービルディング
TEL : 03-5220-8950
- 中央研究所 〒207-0021
東京都東大和市立野三丁目1253
TEL : 042-563-5811
- 久里浜工場 〒239-0831
神奈川県横須賀市久里浜七丁目3-1
TEL : 046-835-3311
- 高萩工場 〒318-0001
茨城県高萩市大字赤浜字松久保258-5
TEL : 0293-23-1181

- ◆資本金 38億4,040万円
- ◆従業員数 656名(連結ベース)
- ◆事業内容 複合糖質を中心とした医療用医薬品、
医療機器等の製造および販売

- ◆役員
- | | |
|------------|-------|
| 代表取締役社長 | 水谷 建 |
| 代表取締役専務取締役 | 矢倉 俊紀 |
| 常務取締役 | 臼田 眞治 |
| 社外取締役 | 片山 英二 |
| 取締役常務執行役員 | 川村 秀樹 |
| 取締役 | 大西 和明 |
| 取締役 | 福本 安志 |
| 取締役 | 石川 慎一 |
| 常勤監査役 | 金子 健志 |
| 常勤監査役 | 三富 得司 |
| 社外監査役 | 竹内 信博 |
| 社外監査役 | 佐藤 順哉 |
| 社外監査役 | 山田 明文 |

各事業所



中央研究所

創薬研究の要である中央研究所では、先進の設備を揃え、充実した環境のもと、研究者の創造性を重視した運営を行っています。



久里浜工場

医薬品原体(ヒアルロン酸やコンドロイチン硫酸)などを製造しています。



高萩工場

アルツ、オペガンの製造を担う高萩工場では、2008年10月より第4製剤棟が稼動し、安定した生産を続けています。

グループ会社

生化学バイオビジネス株式会社

医薬品原体の販売、試薬・診断薬の製造・販売を主な事業とし、機動的かつ効率的な営業活動を展開しています。

ASSOCIATES OF CAPE COD, INC.

(アソシエーツ オブ ケープ コッド インク)

エンドトキシン測定用試薬の開発を世界で初めて成功させ、米国食品医薬品局(FDA)から承認を取得した試薬専門メーカーです。米国マサチューセッツ州ファルマスに本社をおいています。



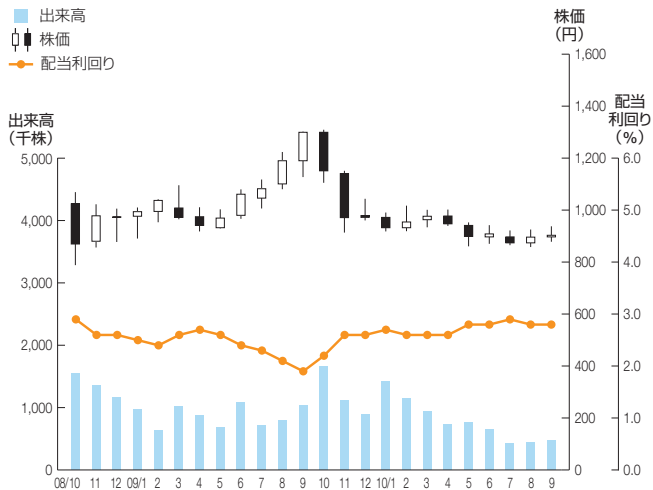
アソシエーツ オブ ケープ コッド インク 本社

株式の状況 (2010年9月30日現在)

株式数および株主数

発行可能株式総数	234,000,000 株
発行済株式の総数	58,584,093 株
株主数	12,746 名

株価および出来高推移



1株当たり配当金および配当性向の推移

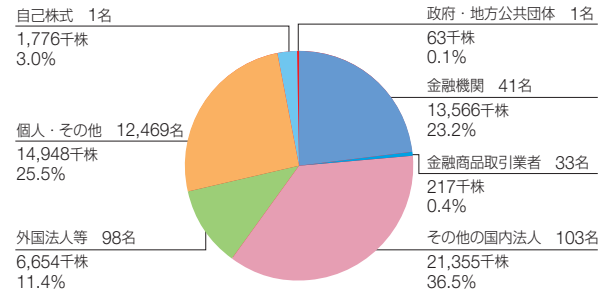
	2008年 3月期	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期
年間配当金	30.0 円	25.0 円	25.0 円	25.0 円 (予定)
配当性向	40.7%	44.9%	39.7%	52.6% (予定)
【内訳】				
中間配当金	12.5 円	12.5 円	12.5 円	12.5 円
期末配当金	12.5 円	12.5 円	12.5 円	12.5 円 (予定)
記念配当金	5.0 円	—	—	—

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1 新業株式会社	7,843	13.8
2 株式会社開生社	7,293	12.9
3 ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー	4,717	8.3
4 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (三菱化学株式会社退職給付信託口)	3,105	5.5
5 資産管理サービス信託銀行株式会社 (みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口)	1,973	3.5
6 株式会社三菱東京UFJ銀行	1,536	2.7
7 有限会社ソウメイ	1,248	2.2
8 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,104	1.9
9 科研製薬株式会社	807	1.4
10 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	798	1.4

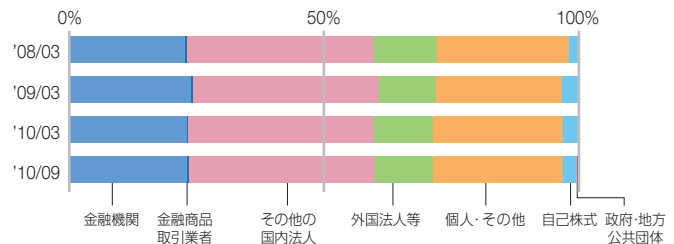
※持株比率は自己株式(1,776千株)を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況



※その他の国内法人には株式会社証券保管振替機構名義株式(4千株)が含まれています。

株式分布推移



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	公告方法	電子公告掲載ホームページアドレス http://www.seikagaku.co.jp/ir/kk.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に公告します。
定時株主総会	6月	その他	《株式事務に関するお問い合わせ》 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-232-711(フリーダイヤル) ホームページアドレス http://www.tr.mufg.jp/daikou/
配当金受領 株主確定日	3月31日 なお、中間配当を行う場合の確定日は9月30日	《住所変更等のお手続》	株主さまのお取引の証券会社 ただし、特別口座に登録された株式に関するお手続は左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)で受け付けます。
基準日	定時株主総会については、3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日	《未払配当金受領のお手続》	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 《連絡先》 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-232-711(フリーダイヤル)		

IR メール配信登録のご案内

株主の皆さまに当社の情報を迅速にお届けするため、IRメール配信を行っています。

当社ホームページのIR情報サイト「メール配信」からEメールアドレスをご登録いただきますと、ニュースリリースや決算発表などのアップ情報をメールでお知らせします。どうぞご利用ください。



IRメールの配信を希望される方は、こちらをクリックしてください。

生化学工業

検索

株主優待制度のご案内

株主の皆さまのご支援に感謝の意を表すとともに、当社株式への投資魅力をさらに高め、長い期間保有していただくことを目的として、株主優待制度を導入しています。株主さまの保有期間*の区分に応じ、クオカードを贈呈しています。



- 1年未満の保有 : 1,000円相当
- 1年以上3年未満の保有 : 2,000円相当
- 3年以上の保有 : 3,000円相当

*保有期間は、毎年3月31日を基準日とし、同一株主番号で継続して当社株主名簿に登録されている期間とします。

